

令和5年度長久手市協働まちづくり活動補助金 補助事業ふりかえりシート

団体名「みんなちフォーラム実行委員会」

事業名 みんなちフォーラム 2023

※ 事業の中で複数の活動をした場合は、①、②のように番号を振り全ての活動について記入してください。

1 事業の実施結果（対象者、事業内容、参加人数など）

- ① 「第5回みんなちフォーラム」令和5年7月23日（日）@長久手市中央図書館
～大地震!!どうする長久手!!～自分の、家族の命を守るため 参加者 約70名
基調講演に NPO 法人レスキューストックヤードの栗田暢之代表をお招きし、実践から見えた長久手の弱点を勉強。また三ヶ峯の「クリザンテームヒルズ長久手」前自治会長西本寛氏に、自治会立ち上げまでの苦労と防災について語って貰いワークショップへと移った。
- ② 「第6回みんなちフォーラム」令和5年11月12日（日）@長久手市中央図書館
～長久手って子育てしやすい、ってホントかな?～ 参加者 約40名
基調講演に NPO 法人こどもフォーム代表の原京子さんをお迎えし、大人は子どもをどう考えるべきか、についてお話頂き、その後参加者で子どもに関する様々な面を話し合いました。また市内でベビーマッサージインストラクターとして活躍されている仲田由加さんには自分の仕事と接する若いママさんの事情から見えてきたことをお話頂きました。
- ③ 「みんなちフォーラムレポート 第2号」の発刊。2023年（令和5年）に開催した3回の「みんなちフォーラム」の意義を参加者、非参加者の市民、議員、行政のみなさんに確認していただくため、600部を3月に発行（電子版も）。市内公共施設に置いていただくほか、実行委員も手撒きで配布しています。（実物を添付）

2 事業の成果（事業によって解決できたこと、参加者の反応、市と協働してよかったことなど）

- ・フォーラム本来の役割、「みんなち条例」の理念の周知（市民主体のまちづくり）は引き続き実践できていると考えています。市民・議員・行政の皆さんにそれぞれのテーマで考える機会を提供出来たと考えます。また多くの専門家とのネットワーク作りも進みました。
- ・第5回のフォーラムではその年の9月に4大学連携でリニモテラスにおいて開催した防災フェスの勉強会も兼ね、多くの大学生が参加、本番への知見の積み重ねに役立ちました。
(たつせがある課)
- ・市の企画政策課とは、市の行政情報、行事情報などの共有が連携出来、またフォーラム当日の機材の貸与、運営の補助などで助けていただき大変助かりました。

3 問題・課題（補助事業を通して気付いた点、課題など）

- ・一般市民に広く周知することは Facebook ページや「レポート」を配布しても、なかなか難しく、一方で参加市民の代謝を促すことは課題ではありますが、少しずつ前進している手応えはあります。会場的にも 70 名ほどが限度で、参加される市民をどういう位置づけにするか、悩ましいところです。
- ・本フォーラムはマネタイズし辛い性格があり、漸減する補助金は負担の割には使いづらい面があります。次回（5月26日開催）では会場に募金箱を置いてみようかと計画しています。

4 新たな展開（今後の目標、新たに取り組みたいことなど）

- ・第7回は5月26日（日）図書館で開催します。（3年目の補助金は申請を見送ります）
みんまち条例について、市長が変わったこと、5年経過し1回目の検証も終わったことから、この条例をもう一度考えてみようとする内容を計画しています。
- ・実行委員が固定化しているので何とか若い方の加入を実現させたい。
- ・実行委員の会費だけでの運営も限度があるため、募金箱などの工夫をしてきたい。
- ・たとえば「能登半島地震」対応に出向いた尾三消防や市の職員などの声を聞き、市民へ防災啓発に役立つ「ミニフォーラム」みたいなものは出来ないか、模索してみたい。

5 補助事業の写真（補助事業の様子が分かるものを添付してください。）



左上：第5回の基調講演者、レスキューストックヤード栗田代表とクリザンチームヒルズ長久手西本氏
右上：第5回WS 左下 Facebook「みんまちフォーラム」へのQRコード 右下：第6回フォーラム